

令和7年度 大田区立入新井第一小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年4月1日

児童数は毎年500名を超える中規模校で、通常学級17学級、特別支援学級6学級(知的3、難聴・言語3)の開校150年を迎える地域でも大変歴史ある学校である。研究活動を重視しており、大田区がすすめる新教科「おたの未来づくり」の研究実践3年間や理科教育の拠点校、さらに令和6・7年度は研究推進校として自立的な学習者を育てるための新たな教育課題研究に取り組んでいる。令和7年度からは東京都教育委員会のデジタルを活用した新たな学びについても併せて研究を進める。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価人数 コメント	
生予個性測別 困目力難標 をな1育未 成来社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	児童が自らICTを効果的に活用し、学びを広げたり深めたりする授業に取り組めたと回答する教員の割合	4.95%以上	・授業の中でICTを効果的に活用するのはもちろんのこと、校外外での体験活動を重視し、児童自らが必要に応じてICTを活用しながら、調べたり考えたりする学習活動を計画的に設定した。 ・学校全体で「おたの未来づくり」の学習に取り組んだ。タブレット端末を積極的に活用し、地域創生についてのアイデアをプレゼン資料や動画で表現することができた。1月の「おたの未来づくり」学習フォーラムでは、地域の和菓子屋さんについて、クイズや動画でPRを行い、販売についても体験することができた。また、高学年では、企業の方等をゲストティーチャーとして招聘したり、近隣の保育園と交流したりした。3年生では、地域の神社と連携し、児童の学びを広げたり深めたりする授業に積極的に取り組んだ。 ・ICTについては、紙との併用も含めて、より効果的に活用していくことを課題とし、改善に取り組んでいる。	A 5	・今年度は研究発表会、周年と多くの行事があった。教師・児童の取り組んでいる様子を楽しく見させていただいた。 ・大切な「校庭の整備」が未だに未完成という状況の中で、150周年記念行事や研究推進校の活動などに素晴らしい成果を上げられたご努力、成果に心からの敬意を表する。ますますのご発展を祈ります。 ・子どもたちが予想以上にICTを積極的に活用できていると感じている。 ・ICTを単に活用することにとどまらず、児童が学びを深めるツールとして使いこなせるように様々な機会を繰り返し提供されていて素晴らしい。 ・今の学校教育と自分たちの頃と考えるとあまりに違いすぎ、どうコメントしたらよいか分からない。登校時に「気を付けて行ってらっしゃい」と声を掛けるだけしかできないのが本音。 ・ICTやタブレットに頼りすぎだと感じる。 ・取組評価と成果指標が連動していない。取組内容と成果目標の設定に問題があるのではないかと。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:90%以上			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:85%以上			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:80%以上			
お世個別 お界別 と目 をつ 標 担な2 うが る材 国を 際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	SDGsの取組について理解し、特に地域との関連もある社会課題についての探究的な学びを通して自ら解決する力が伸びたと考える高学年児童の割合	4.80%以上	・5・6年生は教科担任制を行っており、外国語担当の担任とAETの2名体制で授業を行っている。休み時間はAETが4階イングリッシュルームで英語に親しむ「イングリッシュカフェ」を実施している。また、6年生はESGを受け、リスニング等の到達度について確認している。結果としては、リスニングとリーディングの総合で平均91.7点で前回は上回った。これらを通して、児童の英語力やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。リーディングについては平均点が昨年度より若干下回ったため、英語を聴く力を強化することが課題である。 ・今年度のFLL大会のテーマは「考古学」であった。調べ学習やゲストティーチャーから教わったことを基に、地球規模の課題を自分たちのレベルでどのように解決していくのかについてのアイデアをまとめ、プレゼンテーションを行うことができた。FLL大会では初めて2チームが全国大会に出場し、そこで外国の方と自主的にコミュニケーションを取ることを試みるなど、国際社会・地域社会に自ら関心をもち児童が出てきた。これらを通して、問題解決的な学習をすすめる力が高まった。	A 5	・豊かな国際感覚は自国の伝統文化の知識や理解があってこそ形成されてくと思う。外国語教育、伝統文化の学習、社会的課題についての取組等、広い分野について興味関心をもち、事象を結び付けられるように導いてくださっていると感じる。 ・高学年になるとますます難しい問題を学んでいるため、それが良いのかどうなのか分からなくなる。 ・環境が整っているのだから程度のある取組は当然だと思う。 ・事前の説明で、目標設定と評価方法に問題があるかもしれないとのことだったがその通りだと思う。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:70%以上			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:60%以上			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:50%以上			
た一個 め人 目 基と 標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 ま揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②我が国や郷土の伝統文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	一日30分以上の運動や早寝・早起き・朝ごはん等の健康的な生活を送っていると回答した児童の割合	3.80%以上	・取組目標②について100%の教員が「おおむねできた」と回答した。特に算数では、講師を含めて習熟度別コースを充実させ、児童の学習状況に合わせたよりきめ細かい指導を行うことができた。また、漢字検定等についても、児童が自分のペースに応じて学習できる環境を整え、意欲を高めることができた。 ・1月の学校公開では「生命尊重」をテーマに道徳授業地区公開講座を行った。学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の要となる道徳の授業を、広く保護者や地域の方に公開して意見をいただき、これからの道徳授業の改善・充実を図ることにつなげた。講師を招聘し、地域・保護者の方向けの講演会を行い、約40名(全体の10%)の保護者にご来場いただいた。子どもたちの健やかな成長のために学校・地域・家庭が連携してできることについて、具体的なアドバイスをいただいた。また、グループディスカッションでは、保護者・教員・地域の方との有意義な意見交換を行うことができた。来年度は、保護者の参加人数を増やすために、参加しやすい時間や場の設定などについて検討していきたい。	A 3	・10時間の睡眠が必要と講演で話があったが、多くの子どもたちが達成できていないと思う。一方、朝活などは皆、積極的に参加して楽しみなが体を動かしてはいる。 ・知・徳・体の基本は身体づくりであることは分かるが、成果指標として最適かどうかには少し疑問が残った。 ・勉強も大切だが健康にも目を向けていることが素晴らしい。 ・成果指標に対して効果的な取組をしているように思えない部分があるが、教員全員が「おおむねできた」と思っていることが心配。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80%以上			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70%以上			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:60%以上			
た一個 め人 目 基と 標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 ま揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	一日30分以上の運動や早寝・早起き・朝ごはん等の健康的な生活を送っていると回答した児童の割合	3.80%以上	・取組目標②について100%の教員が「おおむねできた」と回答した。特に算数では、講師を含めて習熟度別コースを充実させ、児童の学習状況に合わせたよりきめ細かい指導を行うことができた。また、漢字検定等についても、児童が自分のペースに応じて学習できる環境を整え、意欲を高めることができた。 ・1月の学校公開では「生命尊重」をテーマに道徳授業地区公開講座を行った。学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の要となる道徳の授業を、広く保護者や地域の方に公開して意見をいただき、これからの道徳授業の改善・充実を図ることにつなげた。講師を招聘し、地域・保護者の方向けの講演会を行い、約40名(全体の10%)の保護者にご来場いただいた。子どもたちの健やかな成長のために学校・地域・家庭が連携してできることについて、具体的なアドバイスをいただいた。また、グループディスカッションでは、保護者・教員・地域の方との有意義な意見交換を行うことができた。来年度は、保護者の参加人数を増やすために、参加しやすい時間や場の設定などについて検討していきたい。	B 2	・10時間の睡眠が必要と講演で話があったが、多くの子どもたちが達成できていないと思う。一方、朝活などは皆、積極的に参加して楽しみなが体を動かしてはいる。 ・知・徳・体の基本は身体づくりであることは分かるが、成果指標として最適かどうかには少し疑問が残った。 ・勉強も大切だが健康にも目を向けていることが素晴らしい。 ・成果指標に対して効果的な取組をしているように思えない部分があるが、教員全員が「おおむねできた」と思っていることが心配。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80%以上			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70%以上			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:60%以上			
た一個 め人 目 基と 標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 ま揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	一日30分以上の運動や早寝・早起き・朝ごはん等の健康的な生活を送っていると回答した児童の割合	3.80%以上	・取組目標②について100%の教員が「おおむねできた」と回答した。特に算数では、講師を含めて習熟度別コースを充実させ、児童の学習状況に合わせたよりきめ細かい指導を行うことができた。また、漢字検定等についても、児童が自分のペースに応じて学習できる環境を整え、意欲を高めることができた。 ・1月の学校公開では「生命尊重」をテーマに道徳授業地区公開講座を行った。学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の要となる道徳の授業を、広く保護者や地域の方に公開して意見をいただき、これからの道徳授業の改善・充実を図ることにつなげた。講師を招聘し、地域・保護者の方向けの講演会を行い、約40名(全体の10%)の保護者にご来場いただいた。子どもたちの健やかな成長のために学校・地域・家庭が連携してできることについて、具体的なアドバイスをいただいた。また、グループディスカッションでは、保護者・教員・地域の方との有意義な意見交換を行うことができた。来年度は、保護者の参加人数を増やすために、参加しやすい時間や場の設定などについて検討していきたい。	C 2	・10時間の睡眠が必要と講演で話があったが、多くの子どもたちが達成できていないと思う。一方、朝活などは皆、積極的に参加して楽しみなが体を動かしてはいる。 ・知・徳・体の基本は身体づくりであることは分かるが、成果指標として最適かどうかには少し疑問が残った。 ・勉強も大切だが健康にも目を向けていることが素晴らしい。 ・成果指標に対して効果的な取組をしているように思えない部分があるが、教員全員が「おおむねできた」と思っていることが心配。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80%以上			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70%以上			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:60%以上			

<p>学個別力・標4 教師力を向上させます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p>	<p>個別最適な学びをテーマにした校内研究・研修を通して、授業改善が図られ、誰一人取り残さない授業改善に取り組めた」と回答した教員の割合</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:50%以上</p>	<p>・取組目標①②について、100%の教員が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>・校内研究では「子どもを中心としたカリキュラム・マネジメント—自由進度学習の可能性を探る—」を研究テーマとして個別最適な学びの在り方について研究に取り組み、11月に研究発表会を行った。激動の社会を生き抜く「自立した学習者」を育てていくために、一斉指導に加えて、引き続きICTを利活用しながら「環境を通して行う教育」の必要性について学び、教員の授業力向上につながった。また、研究発表会には区内だけでなく、区外、都外からも423名の教育関係者が参加し、研究の成果を広く発信することができた。</p> <p>・専門性を生かした教科担任制(副担任制含む)による教員の持ち時数の平均化、休憩スペースの新設等の業務及び教育課程の見直し、改善を進めた。それを通して、教員が児童と向き合う時間をさらに確保することができた。</p> <p>・大田区小学生駅伝大会では、教員の専門性を生かし、校庭が使用できない中でも計画的に練習を行い、午前の部で2位となった。</p> <p>・働き方の改善については引き続き取り組み、児童と向き合う時間を確保していき。</p>	<p>A 6</p> <p>B 0</p> <p>C 1</p> <p>D 0</p> <p>・研究発表会では、どの学年の先生方も主体的に深く研究に取り組んでおられ、その先進性とゆみない学びの姿に感心した。</p> <p>・ひとりひとりに対する学力に合わせた取組が良いことだと思う。各自に合わせた取組をお願いしたい。</p> <p>・この項目もすべての教員が「おおむねできた」と回答していること自体がありえない。自分たちの足りない部分が見えていないのではないかと。</p> <p>・研究が教師に良い結果をもたらしたと思う。教師にとっては負担となるが、能力向上のためにはぜひ多くの研究に参加していただきたい。</p>
<p>た自個 め分別 ら目 学し標 びく5 をい き支 援い きと 生さ きる</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p>	<p>いじめの未然防止、早期発見、早期対応が組織的にできている」と回答する教員の割合</p>	<p>4:95%以上</p> <p>3:90%以上</p> <p>2:85%以上</p> <p>1:80%以上</p>	<p>・取組目標②について、100%の教員が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>・いじめについての校内研修の他にも、折に触れて管理職から指導を行った。それにより、教員の「学校いじめ防止対策基本方針」の理解を深めたり、いじめを察知する感度を高めたりすることができた。また、月1回、いじめ対策委員会を行い、児童の問題行動や対応策について組織的に検討することで、未然防止、早期発見、早期対応につながり、いじめについての重大事案は発生していない。今後も継続していきたい。</p> <p>・登じりや問題行動のある児童については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター、児童相談所、警察等の各関係機関と連携して対応している。また、校内の居場所作りとして、ステップルームを運営しており、ステップルームをきっかけに毎日登校できるようになった。</p>	<p>A 5</p> <p>B 2</p> <p>C 0</p> <p>D 0</p> <p>・今後、高い目標にプレッシャーを受けて隠したりしないように注意が必要かもしれない。</p> <p>・いじめについての取組は感度高く行われていて組織的に対応されていると思う。ステップルームの現状と課題について詳しくかぎたい。</p> <p>・いじめは学年間問わずあると思うが、私たち町会に従事する者も、学校外でのこともたちを見ている者としていじめやけが等がないよう注意が必要だと考えている。</p> <p>・いじめは学校にいる間に表面化しなければいけないものではない。中学・高校に上がってからのいじめもないように考えてほしい。</p>
<p>安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境を学 つ習く 空間と 安全・</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p>	<p>子どもが自ら興味・関心をもって学べる学習環境を整備・充実することができた」と回答した教員の割合</p>	<p>4:90%以上</p> <p>3:80%以上</p> <p>2:70%以上</p> <p>1:60%以上</p>	<p>・取組目標②について、100%の教員が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>・校庭工事中で使用できないため、新校舎での避難訓練については区の施設課等にも確認しながら再検討し、計画的に避難訓練を行うことができた。また、安全指導日についても、年間計画に基づいて、確実に実施することができた。</p> <p>・校内研究で取り組んでいる「自由進度学習」を軸に、子どもが主役となり自ら興味をもって自走して学ぶ学習環境作りについて、教員が創意工夫を凝らし積極的に取り組んだ。</p> <p>・150周年記念式典の取組の一環として、郷土資料室の整備・充実を行った。子どもたちが学校の歴史について関心をもち、調べることができる環境を整えることができた。</p> <p>・単元内自由進度学習については来年度の教育課程にも位置付けた。今後も継続的に取り組んでいくことが課題である。</p>	<p>A 7</p> <p>B 0</p> <p>C 0</p> <p>D 0</p> <p>・オープンスペースをうまく使っていると思う。見ていて楽しいし、子どもも生き生きと活用している。ただ、展示物に教師の手書き文字がほとんどないことが気がかりである。</p> <p>・単元内自由進度学習は子どもが自ら探究しながらすすめていく取組だと思う。準備の大変さもあるがパッケージ化してほしい。</p> <p>・新しい校舎は新しい学習に合ったものになっていると思う。有効な使い方を工夫してほしい。</p>
<p>学地学個 校校校 別別別 をコ・目 つミ家標 くユ庭7 リニ・ まテ地 スイ域 の核連 と携し て協 働に よる</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p>	<p>150周年の取組を通じて、地域の人とかかわる学習を充実させたり、児童に地域のために活動することを勧めたりする教育活動が充実できた」と回答した教員の割合</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%以上</p>	<p>・令和8年度からのコミュニティスクール実施に向けて、学校運営協議会委員も決まり、準備をすすめることができた。</p> <p>・150周年式典に向けて、150周年記念運動会及び展覧会、お祝い集会などの教育活動を充実させた。150周年記念式典には、4～6年生の児童が参加し、150周年を新校舎で迎えられたことを喜び合い、入新井第一小学校の一員としての自覚を高め、さらにすばらしい入新井第一小学校をつくっていくという態度や愛校心を育んだ。</p> <p>・PTA活動の見直し等もあり、児童の登下校の見守り活動や健全育成について、学校との連携について課題がある。改めて、子どもたちのために連携・協働の大切さについて発信していきたい。</p>	<p>A 5</p> <p>B 1</p> <p>C 1</p> <p>D 0</p> <p>・PTA、家庭との連携が薄くなっているのは明白。早急に対策を取ることを望む。</p> <p>・150周年で様々な活動をされていたにもかかわらず評価が低いのは自己評価が厳しいのではないかと。</p> <p>・今年度は周年行事があったので非常に参加しやすい年であったはずなのに自己評価が低いのは反省してほしい。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す